

数字で見る大阪経済のツボ

大阪シティ総合研究所の専属スタッフが
 さまざまな経済指標にスポットをあて、
 大阪経済の現状を分かりやすく解説します。

2023年10月

大阪府の経済力について

主要都府県内の総生産を時系列で見ますと、全県に対する大阪府の構成比は昭和45年度には10.2%を占めていましたが、その後は徐々に低下しています。令和元年度の大阪府の構成比（7.1%）は、東京都に次いで2番目に高いものの、3位の愛知県（7.0%）とほぼ横並びです。他の都県の構成比が昭和45年度比で概ね維持ないし上昇を示しているのに比べ、大阪経済の地盤沈下がうかがえる結果となっています。

名目都府県内総生産の推移

（単位：億円、%）

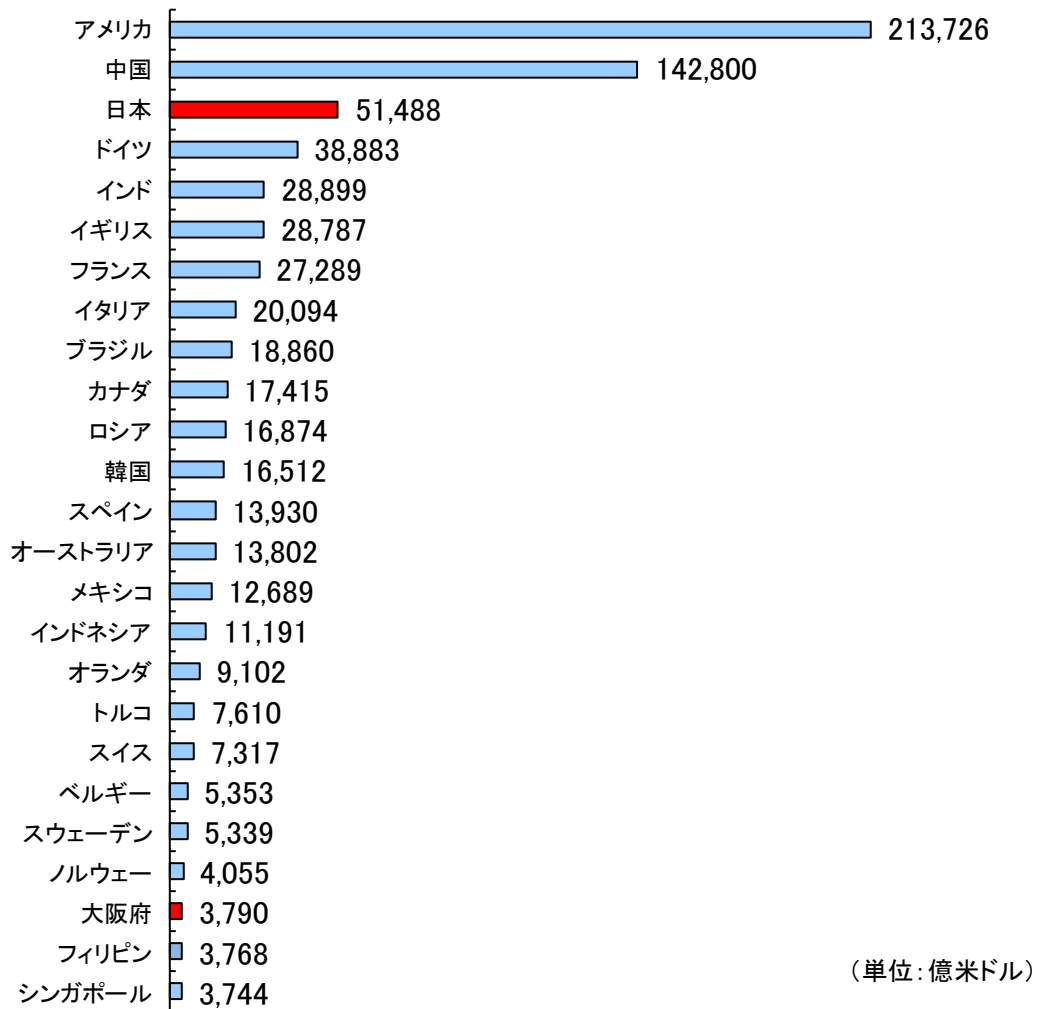
年度	昭和45年（1970）		平成2年（1990）		平成22年（2010）		令和元年（2019）	
		構成比		構成比		構成比		構成比
大阪府	75,224	10.2	385,757	8.5	370,011	7.2	411,883	7.1
東京都	125,547	17.1	774,886	17.0	979,114	19.2	1,156,824	19.9
神奈川県	47,086	6.4	299,565	6.6	327,742	6.4	352,053	6.1
愛知県	48,599	6.6	299,963	6.6	338,245	6.6	409,107	7.0
全県計	735,430	100.0	4,552,070	100.0	5,112,672	100.0	5,808,468	100.0

【資料】内閣府「県民経済計算」による。

（昭和45年＝昭和55年基準、平成2年＝平成7年基準、平成22年＝平成23年基準、令和元年＝平成27年基準）

2019年の大阪の府内総生産（GDP）を世界各国の国内総生産と比較してみると、フィリピンに相当する規模となっています。国内では地位の後退が目立つ大阪府経済も、国際比較では世界34位の国家と同等の経済規模がありその巨大ぶりが実感できます。

主要国の国内総生産(名目値・2019年)



(注)①国際連合「National Accounts Main Aggregates Database」より作成。2019暦年。

②数値はすべて名目値である。

③大阪府は年度値、その他は暦年値。

④大阪府値の換算レート: 1ドル=108.68円

以 上